

2017年度 第3回 日本語教育研修会 実施報告

磯村一弘(国際交流基金日本語国際センター)

1. 実施場所・日時

(1) 台北会場: 2017年12月9日(土)13:30~17:00

日本台湾交流協会台北事務所 B1 文化ホール(台北市慶城街28号)

(2) 高雄会場: 2017年12月10日(土)13:30~17:00

実践大学高雄校区高雄市教学中心(高雄市苓雅区苓南路2号)

2. テーマ

「一歩進んだ日本語発音練習 - 自然な日本語で話すには? -」

3. 概要紹介

「単語のアクセントはちゃんと気をつけている」「拍の長さはいつも注意している」…それなのに、長く話すとなんとなく不自然な発音になっている…そんな学生はいませんか? このセミナーでは、日本語の「文全体のまとまりを、できるだけ自然な発音で話す」ことを目標に、どのような練習をしたらいいか、学生にどう教えたらいいか、実際に声を出しながら、考えていきます。日本語アクセントの最新の考え方を紹介しながら、教科書付属の音声の聞いたり、WEB上の韻律学習ツールを使ったりするときの注意点なども考えます。

4. 具体的な内容

(1) 「日本語らしい発音」の必要性

なぜ自然な発音で話した方がいいのか、なぜ発音を「直した」ほうがいいのか、具体的な例を挙げながら、コミュニケーションの中での発音の位置づけについて、考えました。

(2) 文のイントネーションの規則

「自然で日本語らしい」発音にとって重要な韻律、特にイントネーションについて説明しました。単語のアクセントや文のフォーカスを考えながら、どのような規則で文全体のイントネーションが作られるのかを考えながら、練習しました。

(3) 「一歩進んだ」アクセントの考え方

台湾を含む中国語圏の学習者の特徴である、「単語のアクセントの高低を気にするあまり、文のイントネーションが不自然になる」問題と関連させながら、新しいアクセント観(高低ではなく下がり目で考える)に基づいた指導法や練習法を紹介しました。NHKアクセント辞典の新しい記号の話や、WEB上の合成音ツール等を使う際の注意点についても説明しました。

(4) 拍とリズム

アクセントやイントネーションと並んで韻律にとって重要な、日本語のリズムと、その元になっている「2拍フット」について解説し、その後で、「タン」と「タ」を使って実際に手をたたきながら、日本語

の自然なリズムを体験しました。

(5) 発音を「直す」とは？

学習者に発音を教える際には、ただモデルとなる音声を繰り返し聞かせたり、何回も繰り返して言わせたりするだけでは効果がないことを説明しました。学習者が自分の発音を意識化し、モニターできるようになることの必要性や、そのために教師はどんな支援ができるかについて、考えました。

5. 所感

「発音」に関するテーマは以前から要望があがっていたとのことで、モチベーションの高い参加者が集まったようでした。

海外においては、例えば「日本語にアクセントなんてあったの？はじめて聞きました」というレベルの話から始めなければならないことも少なくありませんが、台湾をはじめとする中国語圏では、「単語ごとのアクセントを教えるのは当然」のように、日本語音声教育の出発点が他国の一般的な事情とは異なっています。しかし、単語単位の知識はあっても、それを「文全体」の韻律の自然さに結び付けることは、まだまだ難しい場合も多いようです。

今回は単語単位の「アクセント」や「拍」の教育を前提としながらも、それを文全体の韻律の自然さにどう結び付けるかという観点から講義を行いました。また NHK のアクセント辞典の改訂に代表されるような、日本語アクセントについての新しい考え方も紹介しました。海外にいと、日本語教育についての新しい考えや理論の情報がなかなか入ってこないかもしれませんが、今回の研修会をきっかけに、新しい情報にアンテナを張り、常に自分の知識をアップデートしていくようにするとよいのではないかと思います。

なお、今回の研修会の内容は、「国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える」にも多くが書かれています。復習として、ぜひ読んでみてください。